早・明・慶のラグビー文化と戦術変化について
Comparative study of rugby culture between Waseda,Keio and Meiji Universities

1K09B057-7　　河原崎　務
指導教員　主査 寒川　恒夫先生　　副査 瀬戸　邦弘 先生

【第１章　諸言】
早稲田大学・明治大学・慶應義塾大学の３校のラグビー文化と戦術変化について述べる前にラグビー・フットボールというスポーツについて大西鐵之祐氏による参考文献をもとに、ラグビーの始まり、エリス少年がなぜボールを持ち走り出したのか、その時の事細かな描写や古代フットボールの期限､そして、ラグビー・フットボールをおこなう者たちのラグビーに対する態度や取り組み方について、ラグビーのキャプテンのあり方などについて述べている｡また、ラグビーのルールやポジションについて説明している。

【研究目的】
筆者は早稲田大学ラグビー蹴球部に所属しており、筆者が入学して以来、早稲田大学・明治大学・慶應義塾大学の３校は優勝したことがなく、昨年においては早稲田大学・明治大学・慶應義塾大学の３校が上位４校に入ることが出来ないという出来事が起きた。そこで筆者は日本大学ラグビー・フットボール界における早稲田大学・明治大学・慶應義塾大学の３校の文化と戦い方の変化を調べることで、近年、弱体化しつつある、早稲田大学・明治大学・慶應義塾大学の三校が今後、大学対抗戦や大学選手権において優秀な成績を残せるように、また、三校の独自のラグビー・フットボール精神などを参考に今後の大学ラグビー・フットボール界がどのように変化していくのかを考察する為である。

【研究方法】
研究方法としては過去における、早稲田大学　対　慶應義塾大学　早稲田大学　対　明治大学と明治大学　対　慶應義塾大学の三校の総当たり試合を15年ごとにチェックし、ゾーンごとに数字を決めその試合ごとの攻めたゾーンを数値化し、大学ごとの攻めるゾーンの数値からその大学の特徴を割り出すというものである。また、15年ごとにチェックしているのは昔からの攻め方などが変化しているかどうかをチェックする為に決めたものである。ゾーンは①～⑤までのゾーンがあり、番号に攻めた箇所をカウントする。数字の間に攻められた場合は内側詰めの数字でカウントすることとする。例えば、①とラックの間であれば①とカウントし①と②の間であれば②とカウントする。④と⑤の外に攻められた場合のみ例外とし、そのままの数字でカウントすることとする。

【第２章　早稲田大学・明治大学・慶應義塾大学のラグビー・フットボール文化について】
早稲田大学・明治大学・慶應義塾大学の３校のそれぞれのラグビー部の創設されたきっかけや、早慶戦の始まり、各大学の部歌についてなどをまとめている。

【第３章　早稲田大学・明治大学・慶應義塾大学の戦術の変化】
早稲田大学・明治大学・慶應義塾大学の３校の試合の映像を用いて15年ごとに1983年早慶戦、1983年早明戦、1996年早慶戦、1996年早明戦、2011年早慶戦､2011年早明戦の全６試合の映像を研究しゾーンごとの数字をカウントし、各大学の攻め方に変化があるのかどうかを調べている。

【第４章　早稲田大学・明治大学・慶應義塾大学の今後と考察】
早稲田大学・明治大学・慶應義塾大学の３校の試合を調べた結果、1983年、1996年、2011年と年を重ねるごとに早稲田大学・明治大学・慶應義塾大学の３ 校の特徴であった攻め方が大きく変化していった。３校とも同じような攻め方に変化しており、ルールなどが原因だと考えられた。今後、早稲田大学・明治大学・慶應義塾大学の３校が関東ラグビー大学対抗戦や大学選手権で優秀な成績をおさめるためには昔からの早稲田大学・明治大学・慶應義塾大学の３校の特徴である攻め方を復活させなければならない。そうすることで３校の武器ができ、他大学が恐れるような大学になると筆者は考えている。また、早稲田大学・明治大学・慶應義塾大学の３校が大学選手権決勝などに出るようになれば、ラグビー人気も復活するのではないだろうかと筆者は考えている。